

パレスチナ人に対するイスラエルの最終的解決法

クリス・ヘッジズ（ピューリッツァー賞受賞ジャーナリスト著、脇浜義明訳、田中一弘・大賀英二補訳

原典：SheerPost.com 2023年11月5日



悪い月が昇る（Bad moon rising.）— ScheerPost/Mr Fish

アパルトヘイト国家イスラエルのユダヤ人過激派、狂信的シオニスト、宗教的狂信者、超国家主義者、隠れファシストが、ガザを地上から消し去りたいと言ったら、彼らを信じるとクリス・ヘッジズは語る。

私はイスラエルにおけるユダヤ人ファシズムの誕生を取材してきた。あの狂信主義者のメイル・カハネ（Meir Kahane）について記事を書いたこともある。カハネは1994年に公職選挙出馬を禁止され、彼の超極右政党カハ党は非合法とされ、イスラエルと米国からテロ組織と断定された。昔、パレスチナ人と和平交渉を行っていたイツハク・ラビン（Yitzhak Rabin,）に対抗して、米国右翼から多額の献金を得て選挙戦を闘ったベンヤミン・ネタニヤフ（Benjamin Netanyahu）の集会に参加したことがあった。そのとき、ネタニヤフ支持者は「ラビンに死を！」と繰り返し唱和し、ラビンの人形にナチ制服を着せて燃やした。ネタニヤフはラビンの模擬葬式の前を支持者とともに行進した。

そのラビン首相は1995年11月4日に狂信的ユダヤ人によって暗殺された。ラビンの未亡人レア（Lehea）は夫の殺害をネタニヤフとその支持者の責任だとして非難した。

1996年に初めて首相になったネタニヤフは、政治生活の中で、アヴィグドール・リーベルマン（Avigdor Lieberman）、ギドン・サール（Gideon Sa'ar）、ナフタリ・ベネット（Naftali Bennett）、アイェレット・シャーケド（Ayelet Shaked）などのユダヤ過激派分子を育成してきた。彼の父ベン＝シオン・ネタニヤフ（Benzion Netanyahu）は、ベニート・ムッソリーニ（Benito Mussolini）

が「良きファシスト」と呼んだ修正主義シオニズムのパイオニアであったゼエブ・ジャボチンスキー (Ze'ev Jabotinsky) の秘書として働き、歴史的パレスチナの地を全部奪ってユダヤ人国家を作ろうと主張したヘルート党の指導者だった。ヘルート党を結成した活動家の多くはイスラエル建国につながった1948年戦争のとき、パレスチナ人民衆に対してテロ攻撃を行った。

アルベルト・アインシュタイン (Albert Einstein)、ハンナ・アーレント (Hannah Arendt)、シドニー・フック (Sidney Hook)、及びその他のユダヤ人知識人は、ヘルート党を「組織形態、活動様式、政治思想、社会的アピールにおいてナチ党やファシスト党に酷似した政党」という声明を、『ニューヨーク・タイムズ』に出した。

昔からシオニズム事業の中には常にユダヤ的ファシズムの潮流があったが、現在ではその潮流がイスラエルを支配しているのだ。

「左派はもう発達した有害な超民族主義を制御する力がない」と、ホロコースト生存者で、世界有数のファシズム研究の第一人者であるジープ・スタンヘル (Zeev Sternhell) が2018年にイスラエルの政治状況に関して警告した。「ヨーロッパ・ユダヤ人をほぼ全滅させた、あのファシズムのヨーロッパにおける潮流と同じ種類だ。それがイスラエルでどんどん成長しているばかりか、まだ初期段階だったナチズムに近い人種主義が見られる。」と言った。

ガザ抹殺の決定はカハネ運動の継承者である隠れファシストの長年の夢であった。このユダヤ民族至上主義者が、現連合政権の中枢部に居て、ガザの虐殺を指揮している。毎日数百人規模でガザのパレスチナ人を殺している。彼らがイスラエル国産のファシズムの凶像と言語を支持・拡大する。ユダヤアイデンティティとユダヤ人の民族主義が、ナチス・ドイツが掲げた「血と土」¹

(Blut und Boden) のシオニズム版である。ユダヤ民族至上主義は神から祝福されたもので、同じようにパレスチナ人殺害も神が祝福するものである。ネタニヤフは古代アンモン族が古代イスラエル族によって虐殺された聖書記述を引用して、パレスチナ人をアンモン族に喩える。絶滅の宿命を負っているイスラエルの敵 — 主要にはムスリム — は悪の化身である人間以下の獣だ、というのである。ユダヤ民族主義のマジカル・サークルの外側にいる連中とのコミュニケーション手段は暴力と暴力脅威だけだ。何百万人というムスリムとキリスト教徒は、イスラエルの市民権を持つ者も含めて、全部静粛すべき存在なのだ。

イスラエル情報省からリークされた2023年10月13日付の10頁の文書において、230万人のパレスチナ人をガザ回廊からエジプト領シナイ半島に強制的にトランスファー（追放）することを政府に勧告している。

このぞっとするような大規模なパレスチナ人民族浄化、パレスチナ人根絶を真剣に捉えないのは大きな間違いを犯すことになる。この「トランスファー」レトリックは誇張表現ではない。文字通りの提言である。ネタニヤフはハマスとの戦いを「光の子らと闇の子らの間の、人間とジャングルの獣の間の戦い」とツイートに載せていたが、いつの間にかそれを消していた。

これらのユダヤ至上主義狂信者がパレスチナ問題に対する自分たちの最終的解決に着手し始めたのだ。彼らはガザ攻撃の最初の二週間で12,000トンもの爆弾をガザに落とし、国連人道問題調整事務所によれば、少なくともガザの住宅の45%を破壊した。彼らには非戦闘員民間人の犠牲を避けようとする気はなく、たとえ同盟国米国の懸念が表明されても、民間人殺害をやめる気はない。

¹ 血は国家体、土は入植地を表すナチ民族主義スローガン。

「イスラエル指導者は軍事攻撃において大規模な民間人犠牲ができることは容認できる代価と考えていることが、米国政府筋にとって明らかになった」とニューヨーク・タイムズ紙が報道した。

「イスラエル高官は米国高官との非公式会談の中で、第二次世界大戦のとき米国と連合軍はドイツと日本に対して民間人を標的にした大規模な破壊空襲を行ったのではないか、広島と長崎の原爆投下など二度も核兵器を使用して、敵に勝ったのではないかと言った」と同紙が伝えている。

イスラエルの目的は、ナチス・ドイツが金髪で目は青く背が高い「アーリア人」純血国家を求めたように、「イスラエルの地」から「不純物」パレスチナ人を追い出して、「純血」ユダヤ人国にすることである。ガザは人の住まない荒地、緩衝地帯とし、ガザのパレスチナ人は殺すか、生き残りはエジプト領シナイ半島へ追い出し、そこで難民生活を送らせるのだ。パレスチナ人を民族浄化したときにイスラエルの輝かしい未来、予言者が物語るメシア（救世主）のユダヤ人贖罪

(messianic redemption) が生じる、という。ユダヤ教至上主義者はアル・アクサ・モスク — 古代ローマ軍によって破壊されたユダヤ教の第二神殿の跡に建てられた、ムスリムにとって第三番目の聖地 — を壊してユダヤ教の第三神殿を建てようという「神殿運動」をおこなっている。アル・アクサ・モスクを壊してユダヤ教第三神殿を建てようという「神殿運動」に、世界中のムスリムが怒っている。狂信者が「ユダヤ・サマリア (Judea and Samaria)」と呼ぶ西岸地区は正式にイスラエルへ併合される。超正統派の宗教政党シャスとユダヤ・トーラ連合の諸政党が主張する宗教法が支配する国家イスラエルこそが、ユダヤ教版のイランとなる。

今やイスラエルが歴史的パレスチナの地全土を完全支配する一歩手前である。不法入植地の拡大、立ち入り禁止の軍用地、イスラエル人オンリーのハイウェイ、軍事基地が西岸地区の60%を占め、パレスチナ人の町村を包囲されたゲットーにしている。イスラエル内パレスチナ人と占領地パレスチナ人を直接的・間接的に差別する法律が65以上もある。入植者など不法なユダヤ人民兵によるパレスチナ人無差別殺害、家屋や学校の破壊、不法な土地押収などの活動は、ガザ戦争を契機に今後ますます激しくなるだろう。

10・7のハマスのレジスタンス以降、西岸地区におけるイスラエル軍と入植者によるパレスチナ人殺害は133人を越え、理由もなく軍に捕らえられ、殴られ、虐待を受け、刑務所に送られたパレスチナ人を数千人になる。

同時にイスラエル国家は、ユダヤ人の国民でも、支配者であるユダヤ人ファシストの歪んだ考えに賛成しないで国家の暴力を非難する者を、「裏切り者のユダヤ人」として攻撃している。ファシストにとってお馴染みの敵は、ジャーナリスト、人権活動家、知識人、アーティスト、フェミニスト、リベラル、左翼、同性愛者、平和主義者で、彼らもすでにイスラエル国家の標的となっている。ネタニヤフが提起している反動的法律によって司法は無力化されるであろう。国民的議論も不活発になり、市民社会と法の支配もなくなるであろう。「裏切り者」のレッテルを貼られたユダヤ人は国外追放されるであろう。

ファシストは生命の尊厳を軽視する。人間、たとえ同胞の人間ですら、彼らの狂ったユートピア建設の捨て石にすぎない。政権の座にいる狂信者たちは、その気になれば捕虜交換してハマ스에捕らえられた自国民を救うことが出来たはずである。ハマスはイスラエルの牢獄に収容されているパレスチナ人捕虜と交換する目的で10・7作戦でイスラエル人を人質にしたのである。しかし、イスラエル軍はハマス戦士との混乱した交戦の中で、ハマス戦士だけでなく人質になったイスラエル人も殺害の標的にすることを決めた証拠がある。

ニューヨーク・タイムズ紙やアル・ジャジーラに寄稿するジャーナリストのマックス・ブルメン

タール (Max Blumenthal) は、「ハマスの奇襲に対応したイスラエル軍がハマス戦士だけでなく自国民をも殺害したと目撃証言するイスラエル人がたくさんいる」と、ネット・ジャーナル『グレーゾーン』に書いている。彼によれば、イスラエル南部のキブツ・ベエリの防衛隊員のトゥバル・エスカパ (Tuval Escapa) はキブツの住民とイスラエル軍を繋ぐホットラインを立ち上げた人物だが、追い詰められた軍指揮官が難しい決定をしたと語った。テロリストを殺害するためには「イスラエルの家屋を爆撃せざるを得ない」として、ハマス戦闘員と人質を一緒に殺したと、イスラエルの主要新聞『ハアレツ』に語った。

また、『ハアレツ』は、イスラエルとガザの間のエレズ越境地点にあるイスラエル側の軍施設がハマス戦士に占領されたので、軍指揮官が「自国施設の空爆を空軍に要請した」と報道した。エレズ越境地点の軍施設にはイスラエルの民政官と兵士たちがいたが、ハマス戦士と一蓮托生的に殺したのである。

イスラエルは、1986年、「ハンニバル指令」と呼ばれる軍事政策を行った。ハンニバルというのは古代にローマ軍の捕虜になるよりは死を選ぶとして服毒自殺したカルタゴの将軍の名前で、イスラエル兵2人がヒズボラに捕虜にされたときに採用した方針である。つまり、敵に捕虜にされている自国兵士や民間人を殺すことになっても、大規模軍事行動で自軍の敗北を回避することで、かなり物議を醸した戦略である。

2014年の「境界防衛」作戦 (Operation Protective Edge) と呼ばれたガザ攻撃でもこの指令が実行された。8月1日にイスラエル軍将校のハダル・ゴールドイン中尉 (Lt Hadar Goldin) がハマスに捕虜にされた。イスラエルはゴールドイン中尉の身柄が拘束されている地域に空から2000発以上の爆弾を落とし、ミサイルと砲弾を撃ち込んだ。この攻撃でゴールドインと100人以上のパレスチナ人の民間人が死んだ²。このハンニバル指令は2016年に取り消しになったと言われている。

イスラエルのシナリオは、まずガザを壊滅させ、次いで西岸地区の民族浄化に移ることである。

パレスチナ人の悪夢に歓声をあげて喜ぶイスラエル人は、いつか自分たちが悪夢を見ることになるだろう。

ScheerPost.com、11月5日。クリス・ヘッジズはピューリッツァー賞を受賞したジャーナリストで、ニューヨーク・タイムズ紙の海外特派員を15年間務め、同紙では中東支局長、バルカン支局長を務めた。ベストセラー『*American Fascists*』の著者：著書にベストセラー『*American Fascists: The Christian Right and the War on America*』、『*War Is a Force That Gives Us Meaning*』などがある。

² イスラエルは、ハマスはゴールドインを含む3人の兵士を待ち伏せして射殺したのに、中尉を生き返っている捕虜と装って政治的・軍事的譲歩を引き出すための交渉の切り札にしようとしたと主張した。